

としては小笠原産の *H. pacificus* Y. Kobayasi および東京駒場で採られた *H. arenarius* Tul. がある。後者は発見当時 *H. suzukianus* Henn. と称せられた。今回の尾瀬産の個体は元来地中生のものが山の斜面の土壌から偶然に露出し、異物に挟まっていびつな角形に変形して居た。なほグレーバの断面を見ると、小室の中に暗褐色の胞子塊が充満し、肉眼ではグレーバ全体が一様の組織のように見られた。

(2) ***Rhizopogon rubescens* Tul. var. *vittadinii* Tul., Fungi Hyp. 89 (1851).** Fruitbody depressed globose, ca. 2 cm in diameter, surface dark purplish brown, almost black in dried state, fibrils on surface inconspicuous. Peridium simple, 250-300 μ thick, composed of ochraceous, 2-3 μ thick hyphae. Gleba white, then pale rosy to ochraceous—purplish brown, almost homogeneous by naked eye; cavity labyrinthiform. Basidia clavate, 18-25 \times 5 μ , 4 sterigmate. Basidiospores ellipsoid or fusiform, hyaline, 6-8 \times 2-2.5 μ .

Hab. Half buried in soil, mixed forest, Miharashi—Nushiri (Satoru Kobayashi, July 16, 1979); new to Japan.

これは我国新発見の変種である。ショウロ (*R. rubescens*) では表皮の厚さが 160-220 μ であるのに比べて、本変種ではより厚く、また空気に触れて著しく紅変せず、表面の菌糸束は著しくない。胞子は小形であり、生育地は海岸砂地に限られて居らない。

(3) ***Elaphomyces japonicus* Lloyd.**

Hab. In *Tsuga* forest, Ayame-daira (Oct. 3, 1950), Mt. Shibutsu (Oct. 2, 1978). 冬虫夏草の *Cordyceps ophioglossoides* 及び *C. capitata* の寄主として間接に発見。

(4) ***Elaphomyces reticulatus* Vitt.**

Hab. Ozegahara (Jul. 9, 1950). *Cordyceps canadensis* の寄主として発見。

○ヤクシマチドリについて (井上 健) Ken INOUE: On *Platanthera amabilis* Koidzumi

ヤクシマチドリは、1917年に小泉源一により屋久島特産の新種 *Platanthera amabilis* Koidzumi として記載された。その後、正宗 (1964) により、キノチドリの変種とされ、大井 (1975) により支持されている。又、北村ら (1964) は、西日本に分布するキノチドリの一型のナガバノキノチドリと同一視している。今回、生の材料を入手し検討した結果、いくつかの重要な特徴が判明したので報告する。

ヤクシマチドリの概形は以下の様である。地下茎は伸長して長さ約 2 cm。塊根は余り肥厚せず、長さ約 1.5 cm、幅約 2 mm。草丈 10-25 cm。葉は 2~3 枚。最下の葉は最大で、茎の中途もしくはやや根生状に着き、強く抱茎、開出し、長だ円状披針形

から卵形、葉縁は著しく波打ち、光沢のある深緑色、長さ 2.5-6 cm、幅 1-3 cm。上方の葉は急にもしくは漸次小さくなる。花序は、(1-)3-6 花を疎に着け、長さ (2-)3-8 cm。苞は披針形。最下の苞は子房より短かいか又は同長、長さ 6.5-12 mm。花は淡緑色。背がく片は狭卵形、長さ 3.5-4.5(-6) mm。側がく片は、線状披針形、長さ 5-7 mm。花卉は下半部は卵形、上半部は線状披針形、全体で長さ 5-7 mm。唇弁は線状披針形、長さ 7-9(-12) mm。距は細長く、主に水平に伸び、長さ 10-16 mm。幅 0.7-1.2 mm。蕊柱は長さ約 3.5 mm。半葯は、互いに離れ、内側に湾曲、長さ約 2.8 mm。花粉塊は柄を含めて長さ約 2.5 mm。花粉塊柄は内側に湾曲しており、長さ約 1.6 mm。粘着体はほぼ円形で裸出。くちばし体は余り発達せず線状。柱頭はくちばし体の下で洞穴状。仮雄蕊は目立たない。

ヤクシマチドリの蕊柱(図 1-A)では、半葯(al)とその中の花粉塊柄(c)が内側に湾曲している。これに対し、キソチドリ(図 1-C)図では、半葯及び花粉塊柄がほぼ真直である。この湾曲する形質は、ジンバイソウ(図 1-B)においても程度は軽微であるが認められる。なお図 1-A は、栽培・開花した若い花より描いたので、成熟すると葯隔は更に広がるかもしれない。更に顕著な相違点は地下器官に見られる。ヤクシマチドリの地下器官(図 1-D)は、ジンバイソウ(図 1-E)と共通で、今年の茎の側芽より発達した地下茎(rh)は伸長し、数 cm の長さになり、その先に芽(b)と塊根(t)が形成される。塊根は余り肥厚せず伸長し、地下茎や根と外観上区別出来ないもので、「伸長型」と呼べる型である。一方、キソチドリの地下器官(図 1-F)では、地下茎(rh)は、数 mm と極めて短かく、来年の芽(b)が今年の茎に隣接し、又、塊根(t)も紡錘状に肥厚するもので、「紡錘型」と呼べる型である。

以上に述べた点と共に、他の主な相違点を列举すると次の様になる。

	ヤクシマチドリ	キソチドリ (本州, 北海道)
半葯及び花粉塊柄	内側に湾曲(図 1-A)	ほぼ真直(図 1-C)
地下器官	伸長型(図 1-D)	紡錘型(図 1-F)
葉縁	波状縁	全縁
葉色	深緑色で光沢あり	浅緑色で余り光沢なし
苞長(一番下)	6.5-12 mm	10-20 mm
花期	8 月上・中旬	7 月上・中旬

ヤクシマチドリとキソチドリとの間には、上のような相違点が認められるので、ヤクシマチドリはキソチドリとは異なる独立種とするのが妥当であると考え。キソチドリが屋久島に南下、残存し、それが変化してヤクシマチドリになった可能性も否定できないが、上述の形質差からして、そのように考える必然性は余りない。上に述べた形質で、ヤクシマチドリはジンバイソウと共通点があるが、葉のつき方、花被片の

形などで、かなり異なるので、直接の類縁関係は考えられないと思う。

最後に、屋久島から生の材料を採取して下さいた 東大附属植物園の 邑田 仁氏にお礼申し上げる。
(東大理学部附属植物園)

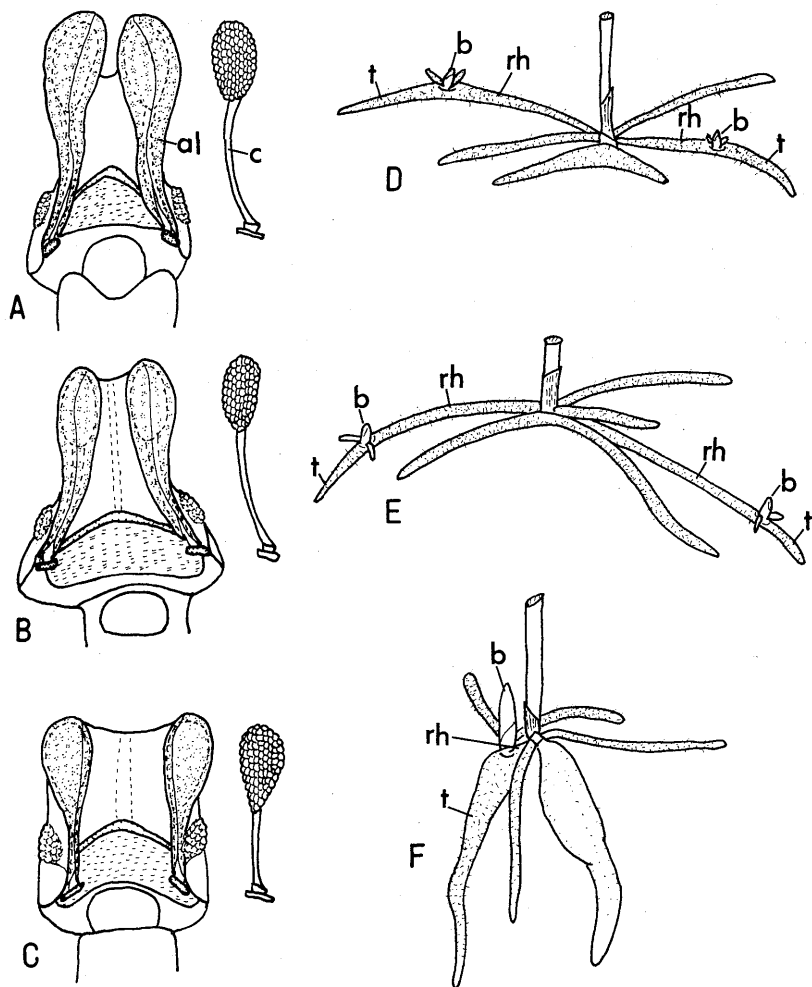


図1。A, B, C 若い花の蕊柱と花粉塊。D, E, F 9月中旬の地下器官。A, D ヤクシマチドリ *P. amabilis* (屋久島産)；B, E ジンバイソウ *P. florentii* (九州, 大崩山産)；C, F キンチドリ *P. ophrydioides* (C, 八甲田山産；F, 富士山産)。al, 半葯；c, 花粉塊柄；rh, 地下茎；b, 次年度の芽；t, 塊根。A, B, C×14, D×1, E×1.5, F×2。